

- ・咽頭結膜熱（プール熱）は都の定点当たり報告数が3.63と**警報レベル**が続いています。
- ・インフルエンザは都の定点当たり報告数が15.08と**注意報レベル**が続いています。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が増加傾向にあり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の都の定点当たり報告数は、7.19で今後の動向に注意が必要です。

全数報告対象疾患

- （三類）腸管出血性大腸菌感染症 1件
 - ・（30代女性）無症状病原体保有者、血清型はO-157、毒素型はVT2、感染地は不明、感染経路は不明
- （五類）侵襲性肺炎球菌感染症 1件
 - ・（40代女性）血清型は未実施、感染地は国内、感染経路は飛沫・飛沫核感染、肺炎球菌ワクチン接種歴は無し
- （五類）梅毒 2件
 - ・（20代男性）病型は早期Ⅰ期、感染地は国内、感染経路は同性間性的接触
 - ・（50代男性）病型は早期Ⅰ期、推定感染地は国内、感染経路は異性間性的接触

定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数 ◆ 2023 北区
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数) — 2023 東京都

新型コロナウイルス感染症 ※令和5年5月8日より定点把握対象疾患に移行しました。



Topics

HIV感染症と梅毒の違い、共通点、重複感染について

◎11月16日~12月15日は東京都エイズ予防月間です◎

◎性感染症は感染経路が同一であることや感染率が高いことから、**重複感染**（複数の感染症に同時感染すること）は珍しくありません。そこで、今回は重複感染やHIV感染症と梅毒の違い・共通点についてご紹介します。

【HIV感染症と梅毒】 ※太字下線部は共通点

	HIV感染症	梅毒
原因	ウイルス （ヒト免疫不全ウイルス）	細菌 （梅毒トレポネーマ）
症状	インフルエンザ様症状（感染後約1ヶ月） → 無症状 （感染後数年~数十年後）→ エイズ発症	しこり、ただれ（感染後約1ヶ月）→ 全身の発疹（感染後約3か月） → 無症状 （感染後数年~数十年）→ 神経梅毒
感染経路	性行為による感染 、 母子感染 、血液感染	性行為による感染 （オーラルセックス含む）、 母子感染

【梅毒がHIV感染症に与える影響】

梅毒の症状の一つに潰瘍性の病変ができる場合があるため、梅毒に感染している場合はHIV感染症に感染するリスクが高くなります。また、梅毒は初期症状が少ないことも多く、**自覚がないまま感染している**こともあります。そのため、梅毒に感染していると知らないまま性行為をし、HIV感染症の重複感染を引き起こす恐れがあります。

【HIV感染症が梅毒に与える影響】

通常梅毒の進行症状として挙げられる**神経梅毒**では、記憶障害、思考力の低下、歩行障害、身体の痛み等が現れます。HIV感染症は梅毒の進行を早め、神経梅毒に発展させる可能性があります。

◎HIV感染症、梅毒は早期発見・早期治療が重要です。気になる症状がある場合は医療機関を受診しましょう。

<相談先> ○東京都HIV/エイズ電話相談窓口：03-3227-3335 平日 12:00~21:00 土日祝 14:00~17:00（年末年始除く）

○北区保健所：03-3919-3102またはHIV・梅毒専用電話番号070-2619-1533 平日 9:00~17:00

定点把握対象疾患

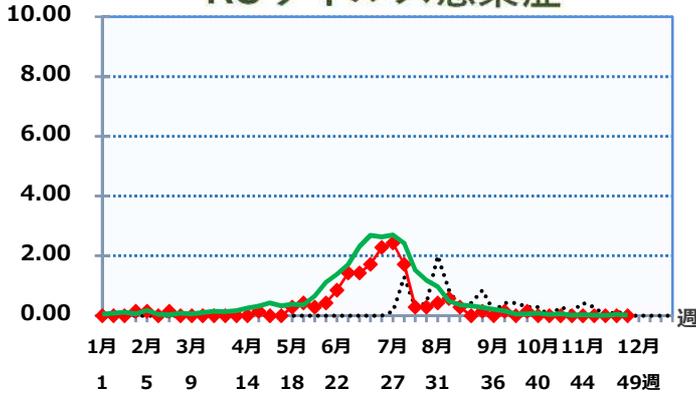
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2022 北区
 ◆ 2023 北区
 — 2023 東京都

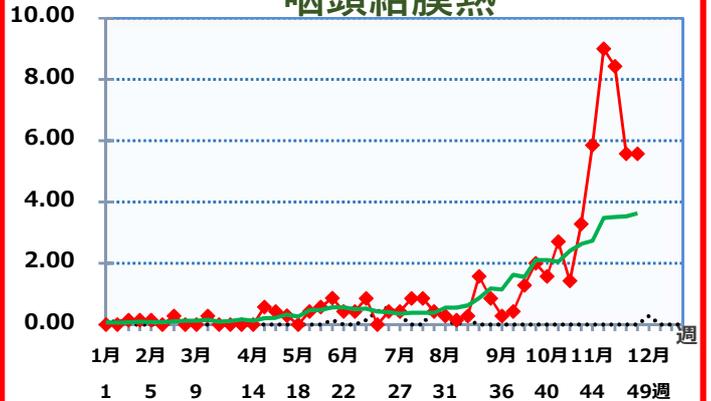
警報

警報レベルが続いており、注意が必要です。

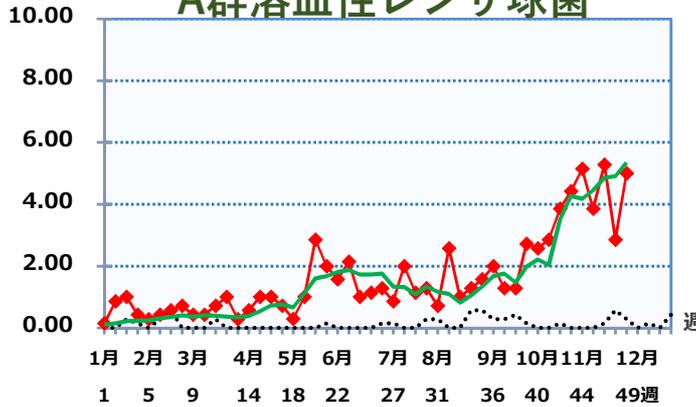
RSウイルス感染症



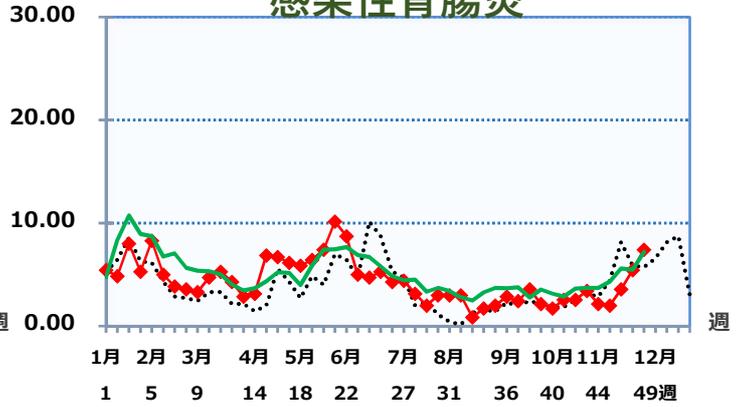
咽頭結膜熱



A群溶血性レンサ球菌



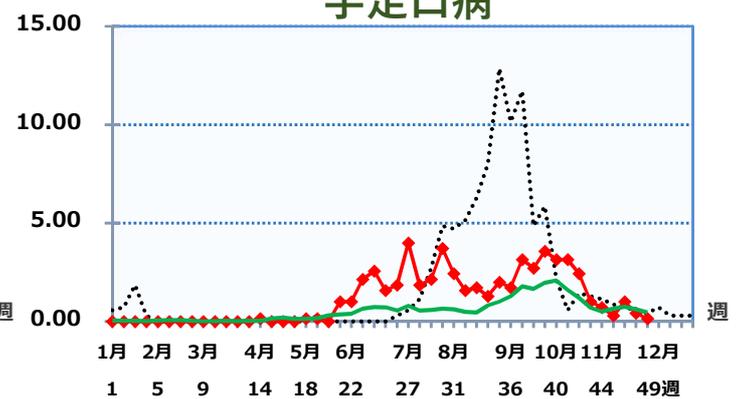
感染性胃腸炎



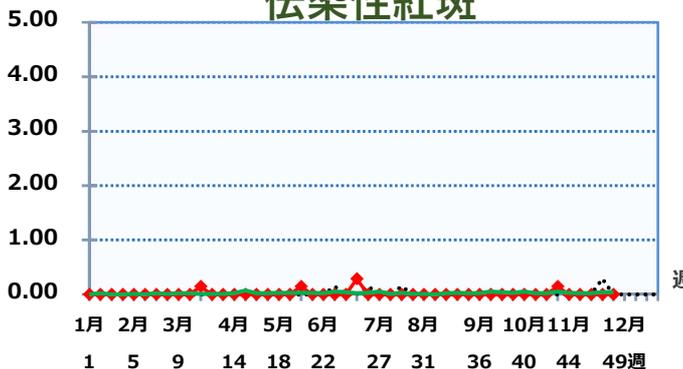
水痘



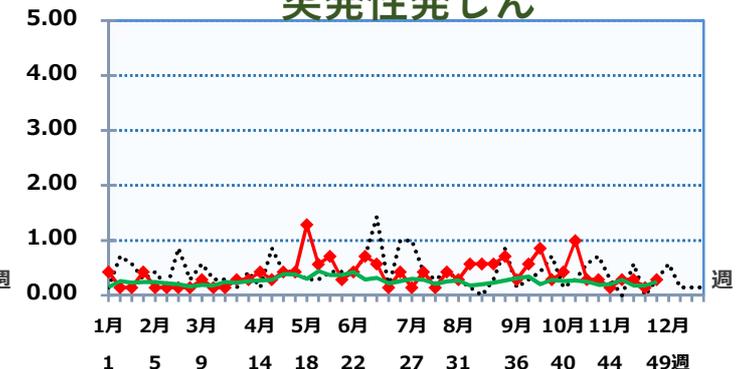
手足口病



伝染性紅斑



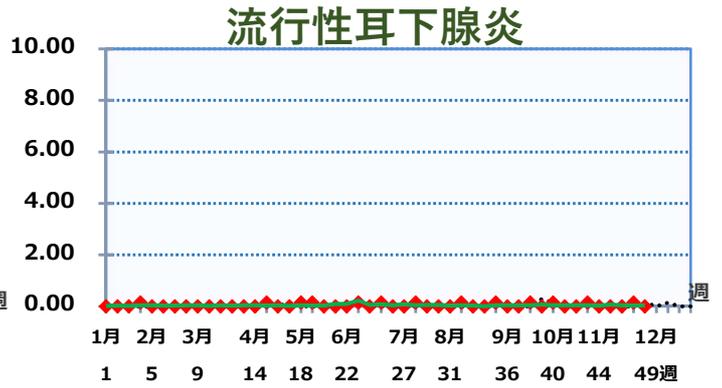
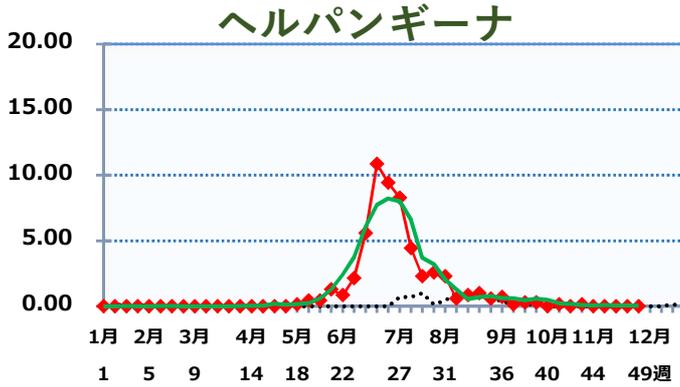
突発性発しん



定点把握対象疾患

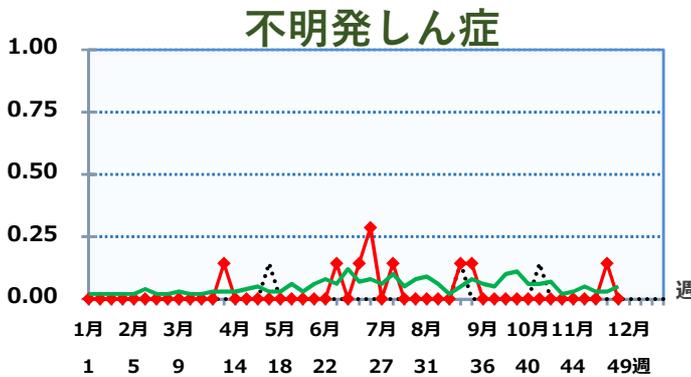
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2022 北区
◆ 2023 北区
— 2023 東京都



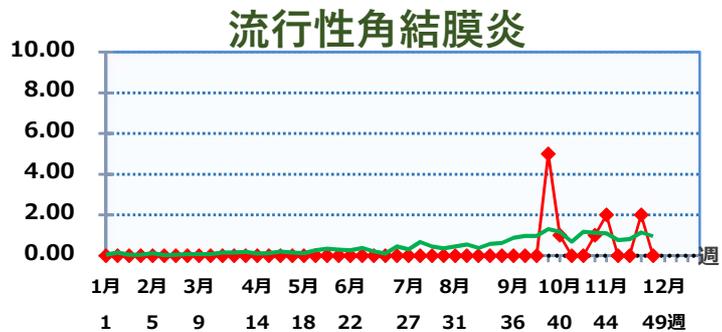
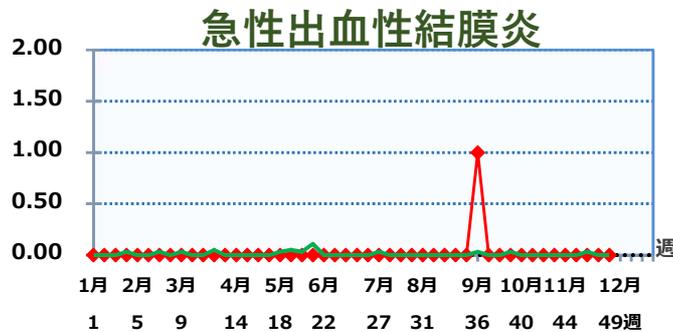
川崎病

北区 : 定点医療機関当たり患者報告数 : 0.00
 東京都 : 定点医療機関当たり患者報告数 : 0.01



注意

注意報レベルが続いており、注意が必要です。



性感染症 (2023年10月分まで) ※梅毒は「全数報告対象疾患」に掲載しています。

2023年11月分は2023年第49週号にて掲載予定です。

